

2023.1 初版

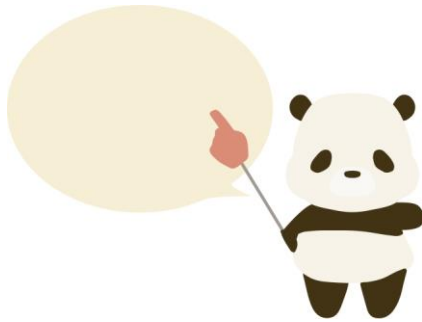
(本pdfは、スクリプトや解答例等を除いた抜粋です)

使って学ぶ！
中国語コミュニケーション2
－CEFR A1-A2 レベル－

教師用ガイド

教師用书

寺西光輝



朝日出版社

◆本テキストのご利用に当たって

〈授業の進行〉

全ての活動は **Can-do 達成**のために配置されています。また、自然なインプットの中で「気づき」を促し、さらに活動や言語形式の指導を通して「理解」や「定着」等を図るよう設計しています。まずは教科書通りに教えていただくことをおすすめします。

〈音源とアプリ〉

速さに慣れてもらうため、自然な会話をネイティブスピードで収録しています。シャドーイングに使う場合や、場面の聞き取り（特に1回目～2回目）の際などで、必要があればリスニングトレーナーの減速機能をご活用ください。

〈スクリプト・日本語訳の公開〉

「キーワード」や「タスク」等に含まれるリスニング課題は、すべてを聞き取ることを想定したものではありません。複数回聞いて課題を達成できればそれでOKですが、復習・確認や自律学習等のため、スクリプトおよびその日本語訳を教科書サポートページに記載してあります。必要に応じて学生にお示しください。

<https://sites.google.com/view/tukatte2/>



◆本テキストの特徴（比較）

文法シラバスの教科書	←	本書（行動中心アプローチ、FonF）
<ul style="list-style-type: none">・どのような文型や語彙を知っているかを中心に学びます（文型積み上げ式）。・まず教えるべき「文法」や「語彙」があり、その知識を身につければ、いつか応用して何かができるようになると思います。・易から難へ順序立て、体系的に文法構造を学びます。・文法規則の説明や、訳読、ドリルによる明示的学習を行います。また、教科書によっては「文型」の反復練習を行います。		<ul style="list-style-type: none">・社会的にどのような「行動」がとれるようになるかを中心に学びます（課題遂行型）。・まず「何ができるようになるか」から出発し、文法や語彙はあくまでも Can-do 達成のために必要なものとして学びます。・その課の Can-do 達成に必要な文法事項を網羅的に教えるようなことはしません。・暗示的学習を先行させ、言語活動を通して体験的に学びます。そのなかで「気づき」を促し、その上で言語形式（文法）に焦点を当てた学習を行います（Focus on Form : FonF）。

◆关于本教科书的使用

〈课堂教学的开展〉

本教科书所有的课堂活动都是为了完成 **Can-do 教学目标** 而设定的，意在谋求通过自然的语言输入，引起学生对语言形式的“注意”，并且通过课堂活动和语言形式的指导，加强学生对语言的“理解”和“吸收”。本教科书推荐各位老师按照教科书的内容和顺序进行教学。

〈声源和听力软件〉

为了让学生适应日常中文的速度，本教科书采用了中文母语者自然对话的录音。在影子跟读的时候，或者是做课文听力练习（特别是第一次听和第二次听）的时候，如果有教学上的需要，可以使用听力练习软件的录音减速功能。

〈公开听力原文和日语译文〉

本教科书设定的包含在“关键词”和“课堂任务”中听力课题的目的，并不是为了让学生理解听力的全部内容，而是在听过几次之后让学生顺利完成课题。虽然学生不用理解听力的全部内容，但是为了学生的自主学习，本教科书把听力原文和日语译文刊登在教辅网页。各位老师可以根据教学上的需要出示给学生。

<https://sites.google.com/view/tukatate2/>



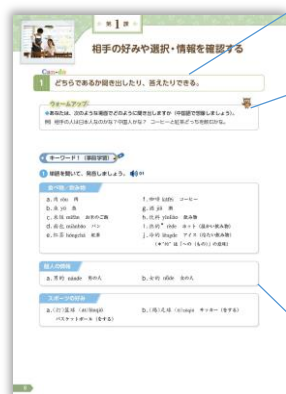
◆本教科书的特色

以语法为教学大纲的教科书	←	本教科书（以行动为导向，FonF）
<ul style="list-style-type: none">· 以句型和词汇知识为中心进行学习。（句型积累式）· 以语法和词汇的教学为首，并且认为学生只要掌握了语言知识，就可以自由运用。· 从易到难，系统地让学生学习语法构造。· 通过语法规则的解说、译读，进行外显学习。有的教科书还会进行句型的反复练习。		<ul style="list-style-type: none">· 以社会行为为导向进行学习。（课题执行式）· 以“用中文能做到什么？”为出发点，让学生学习语法和词汇的主要目的是为了完成 Can-do 教学目标。· 对于完成 Can-do 教学目标没有帮助的语法项目，本教科书不会进行全面的教学。· 内隐学习优先，让学生在体验中学习，并在活动中引导学生对语言形式的“注意”。在此基础上，再聚焦语言形式（Focus on Form : FonF）。

本教科書をより良く活用していただくために（日本語版）

（中文版→p.7）

◆各課の教え方の例と意図



◇ **Can-do** ・各課の初めに、学生とともに確認して下さい。

◇ **ウォームアップ**

・これから学ぶ場面について、まずは学生自身に想像させてください。

これから学ぶ内容に関する概略を提供したり（先行オーガナイザー）、関連する既有知識の枠組み（スキーマ）を活性化させたりすることを目的としています。

◇ **キーワード ①単語**

・すべて予習してくることを前提としています。授業では先生（または音声）に続いて復唱させてください。

これに加えて本文等に出てくる必ず覚えるべき単語は、付属教材のチェックシートに含まれていますので、こちらを復習に使用することをおすすめします。



◇ **②会話を聞いて選びましょう**

・単語を学んだら、現実的な文脈のなかで聞く練習をします。

会話全体を聞き取る必要はありません（あえて未習の語彙や表現を含めています）。あくまでも**キーワード**を中心に聞きとって文意を推測する練習ですので、すぐにスクリプトを示したり、解説したりしていただく必要はありません。

なお、スクリプト中の重要表現は、ほぼ次の「アクション」に含まれていますので、授業後半や授業後に復習として再度取り組ませる（指で絵をさす）などしていただくのも効果的です。その後にスクリプトをお配りいただいてもかまいません。

◆キーワードを学んでから、すぐに会話の聞き取り練習をするのには、次の2つの意図があります。

1. 実際のネイティブとの接触場面では、学習者が知っている表現のみを使ってくれるわけではありません。そのため、知らない表現の中から自分が知っている単語を抽出して、（背景知識を活用しつつ）相手の意図を推測する力を養います。

2. 意味のある文脈の中で単語を聞くことで、学生の「気づき」を促すとともに、これから学ぶ重要表現を理解したり定着（インテイク）させたりするための基礎にします。



◇ **アクション** ・ **Can-do** の達成に必要な重要表現を学びます。

「何ができるようになるか」を目標とし、多くの用例に触れます。あくまでも「**行動**」に注目させ、まずはそのなかで〈気づき〉を促すようにしてください。

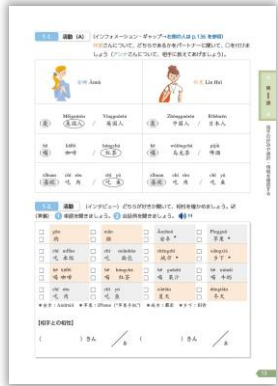
その上で、必要な文法は適宜「**文法理解**」のページを参照してご説明ください（**文法解説を先行させないでください**）。



◇ **場面 (本文)** ・ **段階的に何度か聞かせてください**。

ここでも、段階的に聴くことによるインプットと「気づき」→「理解」の過程を重視します。最初のリスニングでは、ヒントと問いに意識を向けさせたいうえで、すこしでも内容を推測できればOKです。学生に本文を読ませたり解説したりするのは最後にしてください。

なお、訳読を目的としたものではなく（日本語訳は巻末にあります）、暗唱などで時間をかける必要もありません。また、☆マークのついていない語彙は、この段階で覚えてもらう必要はありません。



◇ **活動** ・ **主にペアでの会話練習をします**。

学生にやりとりをさせたあとで、ランダムに当てて、きちんと身につけているかを確認して下さい（あとで何人かに聞くことをあらかじめ言っておくと効果的です）。

*一部の活動は、「準備（事前学習）」が必要です。あらかじめ宿題として取り組むよう指示してください。

・ **インフォメーション・ギャップ**は、ペアでAとB（巻末）に別れ、お互いの情報差を埋める活動です。

中国語でこの情報差を埋めてもらいます。

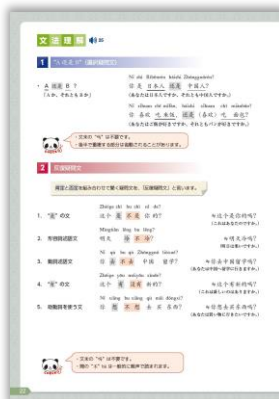
A (そのままのページを参照)	① 飯前 饭后 睡前 1日 3回	② 飯前 饭后 睡前 1日 1回	③ 飯前 饭后 睡前 1日 1回	④ 飯前 饭后 睡前 1日 1回
	① 飯前 饭后 睡前 1日 3回	② 飯前 饭后 睡前 1日 2回	③ 飯前 饭后 睡前 1日 3回	④ 飯前 饭后 睡前 1日 1回

*お互いのページは見ないで中国語のみで情報交換するように指示して下さい。



◇ **タスク** ・より現実的な文脈の中で、中国語を使う練習をします。

「事前課題」が有る場合は、前の授業で、宿題として取り組んでくるようご指示ください。
 課の3回目の授業でタスクを行う想定です。タスク前には、タスクを示しつつその課の復習をしたり、タスク後には付属教材の「ふりかえり」や「コミュニケーション・シート」に取り組ませたりしてください。



◇ **文法理解** ・コミュニケーションの活動を行いながら、適宜参照して、言語形式の指導をしてください。

文法を最後においたのは、学生に、特定の文法を覚えるためにこの課を学ぶのだという意識を持たせないためです。文法解説を課の最後にしなければならないという訳ではありません。
 あくまでも Can-do の達成とタスクの遂行を目的とした活動のなかで体験的に学びながらも、学生の「つまずき」に対して適宜「文法理解」を参照し、言語形式の指導をしてください。
 なお、「応用」および「発展学習」では、本テキストの目標である〈Can-do の達成〉という範囲をやや超えた内容を扱っています。学生の気質や授業目的等によって、取捨選択していただいでかまいません。

◇ **授業の組み立て例** (あくまでも1例です)

- 1回目 課の前半
- 2回目 前半の復習と後半
- 3回目 後半 (あるいは全体) の復習とタスク
- (4回目 復習や追加のコミュニケーション・タスク*) ←2課ごとに1回程度

*30回授業の場合、通常の授業は8課×3回で、24回となります。残り6回分については、余裕を持って授業を進めたり、より自由な会話の時間を確保したりするため、課と課の間に複数回、復習や追加のコミュニケーション・タスク等の時間を入れていただくことをおすすめします (場合によっては6課または7課までとし、1課4回の授業にさせていただくことなども可能です)。

シラバスの授業計画例：〈1~3回〉第1課、〈4~6回〉第2課、〈7回〉コミュニケーション・タスク、〈8~10回〉第3課、〈11~13回〉第4課、〈14回〉コミュニケーション・タスク・・・
 (コミュニケーション・タスクについては、次ページをご参照ください)

◆付属教材およびクイズレットの活用

☆☆☆**コミュニケーション・シート** ・課が終わったらそれきりにするのではなく、より自由な会話の中で繰り返し練習させてください。→**既習表現の応用と対話の続け方を学びます**（本テキストにとってとても重要な活動ですので、ぜひご活用ください）。



〈方法〉

・毎回「**会話テーマ集**」(40-41)に沿った2～3分の会話を行い、「**コミュニケーション・シート①**」(42-43)に記入させてください。

・数回に1回、「**コミュニケーション・シート②③**」(44-47)を用い、普段とは違う相手との自由会話をさせてください（初回は第1課の終了したタイミングをおすすめします）。

〈ねらい〉

・自由会話は、最初は定型表現のみの単純なやりとりにとどまりますが、ふりかえりのなかで学生に「**話題を膨らませたり、相槌を打ったり、より自然な会話にするにはどうすればよいだろうか**」と思わせたり、**会話・作文を通して言語形式への「つまずき」を起こさせたりすることが重要です。**

〈指導上のポイント〉

●自由会話を続け、応用表現等を使うことが必要な状況を作り出すことで、授業内の学習や教材が、学生にとって現実的で真に意味のあるものとなります。

●会話や他者紹介の作文の中で、「このように言いたいけど、どう表現すればよいのだろう？」などの学生の「つまずき」や誤用に対して、それを解決するために言語形式へ焦点化した指導を行ってください。これにより、より効果的な文法学習が可能になります(FonF)。

●ふりかえり時には、「**会話ストラテジー・フレーズ**」(p.34～)も参照させてください。

●開始前にいくつかのフレーズを取り上げ、「今日の活動の中で、相手にもう一度言ってもらいたいときには「**请再说一遍**」を使ってみましょう」などと促すのも有用です。

〈自由会話のテーマ〉

●「**コミュニケーション・シート③**」では、会話の「きっかけ」として、以下のようなテーマを与えるのも良いでしょう。

〈夏休みの思い出〉 〈好きな音楽、食べ物〉 〈休日の過ごし方〉 〈最近の出来事〉 〈趣味、好きなこと〉 〈旅行（行ったことのある場所や行きたい場所）〉 〈アニメや動画〉 〈学業〉 など

・クイズレット

チェックシートの QR から利用できる Quizlet は、音声を聞くだけでなく、フラッシュカードやゲーム等を用いた自主学習に便利です。

なお、クイズレットには、**Live** という機能があります。個人やチームごとに正解の早さを競うゲームです（おすすめ！）。

学生はアプリを持っていなくても、スマートフォンでコードを入力するだけで参加可能です。先生は、ログインした上で、パソコンの画面をスクリーンに映し出していただく必要があります。



*学習セットを保存して、先生方独自の「クラス」を作っていただいてもかまいません。

◇チェックシート

ペアでチェックしていきます。とくに「会話：Q&A」は、自由会話の基礎にもなりますので、時間の余裕のあるときに取り組みさせてください。

なお、テストは、チェックシート内の単語を中心に出題していただくと、学生が勉強しやすくなります。その他の箇所から出題する場合には学生への周知をお願いいたします。

◇ポートフォリオ（言語学習記録等）

ポートフォリオは自律学習の支援と、学習過程の評価を目的としています。各大学の学習管理システム（LMS）を使って、電子情報として提出してもらうことをおすすめします。

◆授業運営に関して

①ペア練習で、あぶれる学生が出ないようにお願いします。

この教科書は、ペアやグループでの練習が主体になっています。普段の練習時、ペアになれなかったり、相手が欠席したりして、一人の学生が出てきた場合、先生の方ですぐに指定してペアを組ませ、一人だけの学生を放置しないようにご配慮下さい。

②席替えをしましょう（ペアの組ませかたの例）。

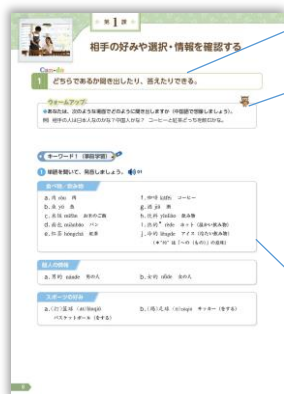
- ・自由にペアを組ませる。（例：名前を知らない人、話したことの無い人と組むよう指示を出す／男女で組むように指定する。など）
- ・アプリ等を使い、席やパートナーをランダムに指定する。
- ・タスクによって相手を探す（例：中国語のみを使い誕生日順に一列に並ばせる。）

③e-learning のすすめ

キーワードの「②会話を聞いて選びましょう」は、LMS で e-learning 化できると、学生に繰り返し学習させることができます。学校でお使いのシステムをご確認いただき、可能でしたらぜひ作成をご検討ください。なお、学習支援サイトでも google フォームを使ったオンラインテストを公開しています。

如何更好地利用本书进行教学(中文版)

◆ 教学范例和教学意图



◇ **Can-do** · 在进入课程内容之前, 请和学生一起确认学习目标。

◇ 热身

· 首先请让学生自己想象一下接下来要学习的会话情景。

这个部分的主要目的是为学生提供学习内容的概要(先行组织者), 以及激活学生现有的相关知识框架(schema)。

◇ 关键词 ① 单词

· 以学生对单词进行过课前预习为前提。在课堂上让学生跟老师(或者录音)进行朗读。

单词表中的单词和课文中出现的星标单词是学生必须掌握的, 这些单词同时也包含在本书配套教材的自我检查表里。建议各位教师在复习时灵活使用自我检查表进行教学。



◇ ②听对话, 选择最佳答案

· 学习单词之后, 需要让学生在实际的会话中进行听力练习。

这个部分的会话没有必要让学生全部理解(其中包括没有学过的词汇和表达)。此处练习的主要目的是让学生通过听懂关键词来推测会话的意思, 所以各位老师也没有必要马上出示或讲解听力的原文。

此外, 听力原文中的重要表达大部分都包含在接下来的“Action”中, 所以不用马上检查学生的答案是否正确, 在课堂的后半程或者课后, 再让学生进行复习则更为有效(比如用手指指着听力的图片进行复习)。在此之后也可以向学生分发听力的原文。

◆ 在学习关键词之后, 本教科书马上开始会话的听力练习有以下2个目的。

1. 学生在与中文母语者实际会话的时候, 遇到课堂上没有学过的表达是再正常不过的事情了。所以, 培养学生在自己不熟悉的表达中提取出已知信息, (活用背景知识) 推测对方意图的能力是本教科书的目的之一。
2. 本教科书的单词听力练习需要结合上下文来进行判断和选择, 这样的练习意在引起学生对语言形式的“**注意**”, 而且这也成为了学生在之后的课程中对重要表达**理解**和**吸收**的基础。



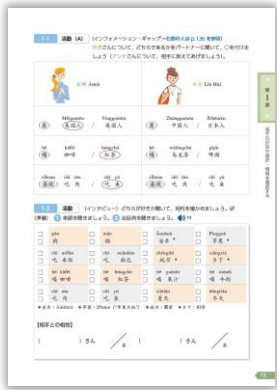
◇ **Action** · 学习完成 Can-do 教学目标所需的重要表达。

为了完成“用中文能做到什么”这一目标，“Action”里提供了许多实用的例句。
 请各位老师让学生注重“行动”，并在活动中引导学生对语言形式的“注意”。在此基础上，各位老师可以参考“语法理解”对语法进行适当的讲解（**请不要提前讲解语法**）。



◇ **场景（课文）** · 请让学生分阶段聆听课文录音。

在课文部分，本教科书强调通过让学生分阶段聆听课文来达到从“自然语言输入”“注意”到“理解”的过程。在第一次听课文录音时，让学生注意课文的提示和问题，对课文内容稍微有所推测便可。学生的课文朗读以及教师的课文解说等环节可以放在课程的最后。
 而且，让学生译读课文并不是本教科书的目的（卷尾有课文的日语译文），没有必要在课文背诵上花费时间和精力。在词汇部分中，没有星标的单词在当下的学习阶段也没有必要掌握。



◇ **课堂互动** · 主要进行两人一组的会话练习。

在学生两人一组的会话练习结束之后，请各位老师随机提问学生，确认学生是否已经掌握课堂所学的内容。（在练习之前事先向学生说明要提问几名同学，这样会更加有效。）
 本教科书的部分活动有预备课题。请各位老师在上一堂课把它布置成家庭作业。

· **信息互补练习**是把两名学生分为 A 和 B（B 参考教材尾页），让学生通过中文对话来进行的课堂练习。

让学生用中文提问，并填写自己的表格上所缺少的答案。

A (参考当前练习页)	①	②	③	④
	饭前 饭后 睡前 に 1 個 1日 3 回	饭前 饭后 睡前 に 個 1日 回	饭前 饭后 睡前 に 個 1日 回	饭前 饭后 睡前 に 2 個 1日 1 回
B (参考教材尾页)	①	②	③	④
	饭前 饭后 睡前 に 個 1日 回	饭前 饭后 睡前 に 2 個 1日 2 回	饭前 饭后 睡前 に 1 個 1日 3 回	饭前 饭后 睡前 に 個 1日 回

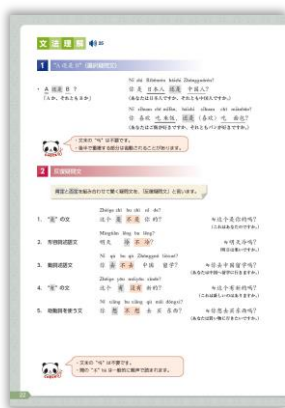
* 请各位老师向学生说明不要看对方的信息内容并且对话只能使用中文。



◇ 课堂任务 · 在更加现实的场景中练习使用中文。

如果课堂任务有预备课题的话，请各位老师在上一堂课把它布置成家庭作业。

本教科书的设想是在每一课的第三课时进行课堂任务的内容。任务开始之前，请各位老师在展示任务课题的同时，带领学生复习之前所学的内容。在任务之后，需要让学生填写附录中的课堂回顾。本教科书建议各位老师利用课堂的剩余时间通过交际用纸来做自由会话练习。



◇ 语法理解 · 在交际活动进行的同时，各位老师可以适当参照语法理解，进行聚焦语言形式的指导。

本教科书把语法理解放到最后的原因是不想让学生有为了记住某个特定的语法而学习课程的意识。但是这也并不意味着语法解说必须放在课程的最后。

在学生完成任务和 Can-do 教学目标等体验式学习的同时，各位老师可以参考语法理解，针对学生遇到的障碍进行语言形式的指导。

此外，“应用”和“发展学习”的内容是稍微超出本教科书所设定的 Can-do 教学目标的。所以各位老师可以根据学生对知识的掌握情况，酌情处理这部分的教学内容。

◇ 课堂构成的范例

- 第1课时 学习课程前半部分。
- 第2课时 复习课程前半部分，学习课程后半部分。
- 第3课时 复习课程后半部分（或者整课）并完成课堂任务。
- 第4课时 复习课程内容或者进行交际任务等课堂练习（每学2课做1次）

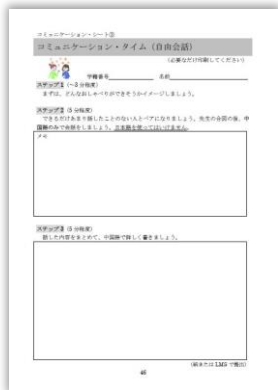
* 在有30个课时的情况下，每一课可以分成3个课时，一学期总共有24个课时用来授课。为了确保学生自由会话的练习时间，本教科书建议各位老师充分利用剩下的6个课时，在课与课之间增加复习或者进行交际任务的时间（根据具体的上课情况，也可以每一课分成4个课时，一学期上6课或者7课）。

教学大纲的课程计划范例：（第1~3课时）第1课，（第4~6课时）第2课，（第7课时）交际任务，（第8~10课时）第3课，（第11~13课时）第4课，（第14课时）交际任务……

（有关交际任务，请参照下一页。）

◆ 配套教材以及 Quizlet 的灵活使用

☆☆☆ **交际用纸** · 每一课的课程内容结束后不要让学习就此止步，请各位老师让学生在更加自由的会话中反复练习。→旨在让学生运用学过的知识并且掌握持续会话的方法（此处的练习是本教科书非常重要的部分，希望各位老师充分有效地利用配套教材）。



〈教学方法〉

· 在每次上课时，请各位老师让学生根据“**会话主题**”（40-41）进行2~3分钟的会话练习，并填写“**交际用纸①**”（42-43）

· 请各位老师每上3-4次课，就使用“**交际用纸②③**”（44-47）让学生与不同的人进行自由会话练习（第一次交际用纸的会话练习建议安排在完成第1课的课程内容之后）。

〈教学目标〉

· 自由会话练习最开始只是停留在使用固定表达形式的单纯交流。但重要的是在回顾交际活动内容时，让学生思考“在会话中怎样扩充话题内容，怎样回应他人说的话，以及如何让会话变得更加自然”等问题。通过会话、写作，让学生注意到语言形式上的问题也是活动的目的之一。

〈授课时的注意事项〉

- 交际活动创造了可以持续自由会话的情景，并且通过语言表达等具有现实意义的会话场景，使课堂学习对学生来说变得十分有意义，具有纯真性。
- 在会话或者介绍他人的作文中，当学生遇到想说的内容不知道用中文如何表达的问题时，请各位老师进行聚焦语言形式的指导，这样的话，学生对于语法的学习也会变得更加有效(Focus on Form)。
- 在回顾交际活动内容时，请让学生参看“**会话策略和短语**”（34页~）。
- 在练习开始之前可以先从“会话策略和短语”中列举几个实用的短语。这些短语对会话的进行也是十分有帮助的。比如，可以告诉学生，在今天的活动中如果想让对方再说一遍的时候，就可以尝试使用“请再说一遍”之类的表达。

〈自由会话的题目〉

- 在“**交际用纸③**”中作为会话的契机，各位老师可以向学生出示以下主题。

〈暑假的回忆〉〈喜欢的音乐和食物〉〈假期是如何度过的〉〈最近发生的事〉〈兴趣爱好，喜欢的事情〉〈旅行（包括已经去过的地方和今后想去的地方）〉〈动漫和视频〉〈学业〉等。

• Quizlet

扫描自我检查表的二维码可以打开 Quizlet 的链接。Quizlet 不仅可以读取单词音频，还可以方便学生通过抽识卡等小游戏进行自主学习。

此外，Quizlet 的 Live 功能可以将学生随机分组，以个人或者小组为单位进行快问快答的对战游戏（推荐！）。

学生就算没有下载 Quizlet 的软件，也可以通过智能手机输入代码来参加游戏。各位老师需要在游戏前把 Quizlet 的教师页面通过电脑投影到教室的投影大屏幕上。



◇自我检查表

由两个人一组进行互查。特别是“会话 Q&A”，这个部分是自由会话的基础，如果课堂上有充足的时间，请让学生进行这部分的练习。

此外，如果能以自我检查表中的单词为主出考试题的话，学生们也会更加容易地掌握学习内容。如果各位老师从自我检查表以外的部分出题，也请告知学生，以便学生复习备考。

◇中文作品夹（语言学习记录、跨文化体验的记录等）

中文作品夹为学生的自主学习提供支持，并对学生的学习过程进行评估。本教科书推荐各位老师使用各大学的学习管理系统(LMS)，让学生将中文作品夹的内容以电子版的形式提交。

◆关于课程的具体实施

① 在两人一组的练习中，请保证不要有落单的学生。

本教科书主要是以两人一组的形式进行练习的。在平时的练习中，如果因为搭档请假缺席等原因出现落单的学生时，教师需要指定其他的学生来组成搭档，请一定要关照到落单的学生。

② 更换座位顺序（分组活动的范例）

- 让学生自由分组练习。（例如：由各位老师指示学生和不知道名字的同学，或者没有说过话的同学组成搭档/或者是一个男生和一个女生的形式组成搭档，等等）
- 各位老师可以使用分组软件随机指定学生的座位和搭档。
- 可以根据各种任务来寻找搭档。（例如：让学生只使用中文，并根据大家出生日期的大小排成一列。）

③ 电子化学习

如果能够在 LMS 把关键词“②听对话，选择最佳答案”的练习内容电子化，就可以让学生反复进行练习。所以请各位老师检查您所在学校的系统，是否可以建立电子化学习，如果可以的话请尽量运用到教学当中。此外，本教科书的学习支持网站还提供谷歌表格的在线小测试。